



大日本帝国の侵略戦争推進によって、身体・知的・精神障害者は、どのような被害を受け、同時に加害者にもされてきたのか。また戦争によってひとびとはどのように障害者にされ、どのように遇われてきたのか。日露戦争以降、第二次世界大戦までの日本帝国のありようを軍隊と障害者の視点から映し出す資料集成。

◆十五年戦争極秘資料集 補巻28

●編

清水寛

資料集成

戦争と障害者

【第1期】全7冊

精神障害を発症した兵士が送られた国府台陸軍病院の「病床日誌」を症状によって分類し、知的障害及び戦争神経症の事例約二、三〇〇件を収録。また反戦思想をもった兵士、逃亡兵士、窃盗・傷害等の事件を起こした者など「不良」兵士だけを集めた陸軍懲治隊及び陸軍教化隊、そしてそもそも兵役義務の免除者であるはずの知的障害者をも合格させた徴兵制度の問題、激しい戦闘や厳しく不条理な軍隊内でのストレスから精神障害を発症させた兵士らに関する調査・論考などを集大成。大日本帝国が兵士にそして障害者に何を求め、どう利用しようとしたのか、知られざる戦争と軍国主義の本質を明らかにする資料集！

A4判／上製／総約二、五〇〇ページ「編集復刻版」

各冊定価＝本体 一〇、〇〇〇円＋税

不二出版

刊行にあたって

清水寛 (埼玉大学名誉教授)

私たちが障害者問題史の研究にとりくみ、障害者の生存・発達の保障、人間としての自由の拡充、基本的人権の獲得、さらに自立と社会参加への足跡を掘り起こし、未来への展望を明らかにしていくこととするとき、必ずといってよいほど立ちちはだかる厚く重い壁がある。(貧困・差別・戦争)という三重の構造を持ち、たがいに分かちがたく連結している(歴史の岩盤)である。

とりわけ戦争は、多くの人々の生命を奪い、人間のからだを深く傷つけ、おびただしい数の障害者をつくりだし、無数の人たちのかけがえない人生を理不尽にねじまげ蹂躪してやまない。しかし、これまで戦争と障害者の問題に対しては、障害者・家族・関係者による戦時下の体験についての手記・証言・報告などがあるものの、組織的・系統的な実証的研究はほとんどなされておらず、関連資料の体系的収集も行われていない。

平和憲法を改悪し、日本が再び戦争をする国になる危険が強まりつつある今、明治期以降の日本の近代国家の形成・確立過程で繰り返し行われてきた戦争およびそれと一体をなす軍国主義体制のなかで障害者がどのような状況にあったかを明らかにし、そこから歴史の教訓を導き出し、人権・共生・平和な社会を築いていく展望を提示することはますます緊要な課題となっている。

『資料集成・戦争と障害者』は、以上のような問題意識に基づき、旧植民地朝鮮・台湾を含む、日本における戦争と障害者に関する重要な資料を可能な限り、広い視野に立ち、系統的・総合的に収集・整理して提供しようとするものである。

まず、戦争に関するもつとも基本的な物的・人的要素である軍隊に焦点をあて、それと障害者との関係を示す第一次根本資料のひとつとして「大日本帝国陸軍」におけるアジア・太平洋戦争期の知的障害と戦争神経症の兵員の『病床日誌』(病歴・診療・措置等の記録)、および戦争・軍隊と障害者・傷病者問題に関する各種の記事・論文・書籍を収録することとする。

なお、本資料集成に収録した資料・文献なども用いて執筆した論稿をまとめたのが、同時に刊行される、清水編著『日本帝国陸軍と精神障害兵士』であり、本資料集成の解説的性格をも有しているので、併せてお読みくだされば幸いである。

推薦します

現代に続く戦争の精神的後遺症

野田正彰 (関西学院大学教授)

ベトナム戦争の後、五年、十年、二十年とアメリカ精神医学雑誌やオーストラリア精神医学雑誌は「ベトナム戦争後症候群」について報告し続けた。あの当時、日本の精神医学者で「戦争神経症」に関心をもつ者はほとんどいなかった。一九八〇年代、歴史学者によって「従軍慰安婦」などの研究が進み、ようやく戦争による人間精神への暴力について、わずかながらも注目されるようになった。しかし、精神医学からの関心はあいかかわらず起ころず、阪神大震災を経て、アメリカ精神医学会が提起した「精神的外的傷後ストレス障害」(PTSD)が見直されるようになり、打って変わってマスコミの流行語にまでなっていた。

近現代の戦争についての歴史学者の研究と、PTSD概念の見直し二つの流れが合わさって、今、埋もれていた「戦争と障害者」

の資料集が出る。隔世の感がする。しかもイラクやパレスチナなどの戦争が常態化し、国内では憲法改定の動きが騒がしくなっている。こんな時代、戦争が人間精神に何をもたらすか、じっくりと考えるべきであろう。

本シリーズにおさめられた知的障害、戦争神経症などについてのカルテは、国府台陸軍病院の八〇〇二件のカルテから抄録されたものである。焼却を命じられながら、当時の病院長によって次の時代の資料として隠され、浅井利勇氏がその複写を保管してきたものである。入手が困難な論文と共に、日本軍隊が兵士をどのように見ていたか、戦争体験は戦後の日本人の精神にどのような影響をあたえたか、尽きることない思索が湧いてくる貴重な資料である。

「消耗品」としての兵士から近代戦争史を照射する

吉田裕 (橋大学大学院教授)

苛烈な戦闘に従事した将兵の中から、多数の戦争神経症患者が発生するという事実は、ベトナム戦争の帰還兵問題などを通じて、戦後の日本社会でもようやく認識されるようになった。現在進行中のアメリカのイラク戦争においても帰還兵の中にPTSDがひろがっていることをメディアは報じているし、海外派兵の動きの中で自衛隊も「コンバット・ストレス」の研究に着手している。

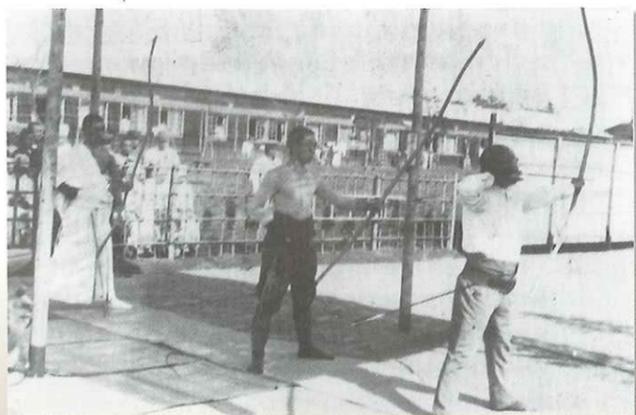
しかし、近代日本が戦った二連の戦争の中で、戦争神経症を発症した兵士や知的障害を持った兵士がどのような運命を辿ったのかという戦争史の基礎的事実は、意外なほど明らかにされていない。

い。そうした中であって、清水寛氏は、この問題についての先駆

的研究を着実に積み重ねてこられた。その研究の最大の特徴は、兵士を管理し、統制し、そして切り捨ててゆく国家の側に立つことを拒否し、「消耗品」としての名もない兵士の側によりそうこたによって、戦争の歴史を再構成しようとする一貫した問題意識である。清水氏の今までの研究の集大成がこの資料集だが、収録されているものの中には、研究者の間でさえ存在が知られていない貴重な資料が多数含まれている。本資料集成の刊行によって、あの悲惨な戦争の新たな実態が明らかにされることを期待したい。



列車内での患者と護送衛兵



戦傷病者の運動療法として行われた弓道(国府台陸軍病院)



収録予定資料名(抄)・編著者名・発行年月

第一冊
「病床日誌」知的障害編I

第二冊
「病床日誌」知的障害編II

懲治隊概則ヲ定ム ●一八八・四

疾病詐偽(軍医学会雑誌)第六九号 ●都築宗正 ●一八九四・六

精神病ノ鑑定(軍医学会雑誌)第七五号 ●平賀精次郎 ●一八九六・六

自傷鑑定一例(軍医学会雑誌)第九号 ●長峰健二郎 ●一八九八・四

台湾陸軍々隊ニ於ケル自殺(軍医学会雑誌)第三四号 ●村山有

一九〇三・二

戦役ニ因スル精神病ニ就キテ(岡山医学公雑誌)第一九五号 ●述

Ⅱ 荒木善太郎 ●一九〇六・四

〔海軍卒ニシテ陸軍懲治隊ニ收容シタル者ノ懲罰ニ関スル

件〕(勅令第八十三号) ●陸仁 ●一九〇八・七

掌打ニ因スル鼓膜損傷ノ鑑定例(軍医団雑誌)第六号 ●水谷雄

二 ●一九〇九・九

軍隊ニ於ケル脳神経衰弱症ノ二十例(医事月報)第四卷第三

号 ●述Ⅱ 里見三男 ●一九〇三

戦役間発生シタル精神病患者ノ統計等ニ就キ問合ノ件 ●奥

匈国大使館 ●一九〇四

懲治卒ヲ基礎トシテ研究シタル犯罪予防方案(借行社記事)

第四二二号 ●第四二二号 ●堤 ●一九〇五

軍隊ニ於ケル自殺及其ノ予防法(借行社記事)第四二三号附録別冊 ●菅沼 ●一九〇六

新兵ノ精神状態検査ノ要義(軍医団雑誌)第二九号 ●川島慶治 ●一九二二

精神病 概況(明治三十七八年戦役陸軍衛生)第五卷第四册第一〇編 ●一九二二・九

日露戦役中余ノ実験セル精神障礙ニ就キテ(明治三十七八年戦役陸軍衛生)第五卷第四册第一〇編 ●吳秀三 ●一九二二・九

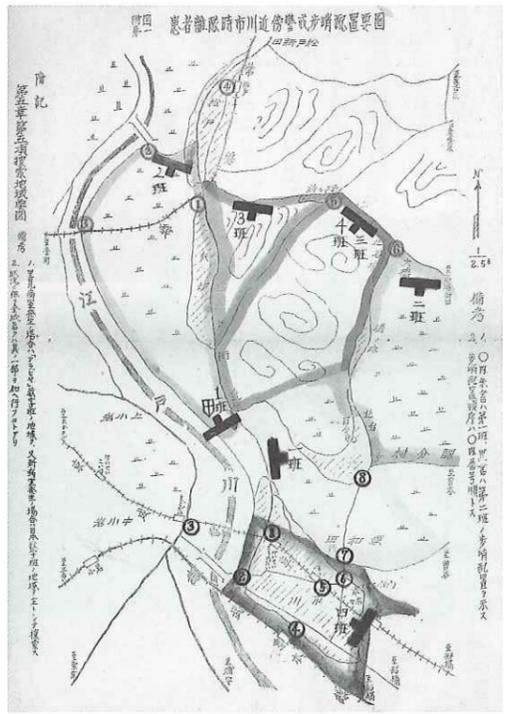
在姫路陸軍懲治隊懲治卒ノ精神状態視察報告書(児童研究)第一七卷第七号 ●第一〇号 ●三宅鉦 ●杉江重 ●一九二二・五

軍隊ニ於ケルひすてりニ就テ(神経学雑誌)第二五卷第二号 ●第二号 ●第四号 ●第五号 ●飯島茂 ●一九二二・四/五

変質者(中間状態)ニ就テ(借行社記事)第五五号 ●円山広俊 ●一九二七・六

大正五年徴兵「トラホーム」花柳病患者表(軍医団雑誌)第七

号 ●一九二七



患者離隊時市川近傍警戒歩哨配置要図「患者逃亡時ニ於ケル対策」国府台陸軍病院精神科病室発行(1944年8月)

停虜脱柵ノ件通牒(板俘発第四九号) ●板東俘虜收容所 ●一九八・二

軍隊ニ於ケル犯罪ト精神病トノ関係(岡山医学公雑誌)第三三

九号 ●代田英夫 ●一九二八・四

兵役ニ堪ヘサル俘虜解放ノ件上申(板俘発第二三三号) ●板東俘

虜收容所長 ●一九九三

兵役忌避詐病行為被告人トシテ監置セラレタル早発性痴

呆患者ノ鑑定書例(軍医団雑誌)第九七号 ●円山広俊 ●一九二〇

在郷将校(精神異状) 上京ニ関スル件報告(朝警秘第三三三号) ●朝

鮮軍司令官 ●一九二七・六

徴兵検査ニ於テ觀察セル畸形ノ数例(軍医団雑誌)第一九〇号 ●

水野文次郎 ●一九二九・四

肺結核、肺炎ノ患者除役離隊後ノ現況(軍医団雑誌)第二

一七号 ●前田信吉 ●一九三三・七

兵業並戦闘ニ基因セル視神経損傷ノ三例ニ就テ(軍医団雑誌)第二四〇号 ●松崎陽 ●一九三三・六

陸軍教化隊に就テ(借行社記事)第七二二号附録 ●陸軍教化隊 ●一九三三・二

高射砲第二聯隊
陸軍砲兵三等兵
右發病年月日不詳原籍地於テ精神發育制止症ニ罹リ昭和十三年一月十日頭書部隊ニ入隊同月二十日國府台陸軍病院ニ入院現全體格榮食共ニ中等度(體數六六)ニシテ頭顔運動鈍感情鈍指力稍々不良病識缺如注意力不良記憶力不良記憶力不良智能力低下現在學年程度ノ智能 意志減退等ノ症ヲ殆シク永服役ニ堪ヘサル者ト診斷ス
昭和十三年二月三日
主任國府台陸軍病院附陸軍軍醫少佐 佐藤 亨
參生國府台陸軍病院長代理陸軍軍醫少佐 諏訪敏三郎

「病床日誌」知的障害編 一九三八年 より

内容見本(適宜縮小して復刻版二ページにつき原本四ページ分を面付けしてあります)

自昭和十三年一月
至昭和十九年十一月

調査研究事項

國府台陸軍病院

調査研究事項(至昭和十九年十一月間)

(當病院ハ昭和十三年一月陸支隊第七〇號ニ依リ精神系疾患ヲ收療)

軍醫團雜誌掲載ノモノ

- 1 軍隊ニ於ケル自殺並ニ自殺企圖ノ醫學的考察 三一六號
- 2 精神分裂病ノ「カルチアゾール」療法ニ就テ 三二五號
- 3 支那事變歸還將兵ニ於ケル「マラリア」ノ臨床的觀察 三二六號
- 4 「マラリア」ノ神經障礙ニ就テ 三三八號
- 5 「マラリア」ノ精神障礙ニ就テ 三四一號
- 6 戦時神經症ノ精神醫學的考察 三四三號、三四四號、三四五號、三四九號、三五〇號、三五二號
- 7 有糸核合併セル精神分裂病ニ對スル「カルチアゾール」療法ニ就テ 三五七號
- 8 腦膜透過性知見補遺 三六三號
- 9 戦時神經症ノ發呈ト病像推移 特一號、特二號
- 10 セミノームノ一例 三六四號
- 11 衛生勤務ニ關スル軍醫精神醫學的着意 昭和十五年特號
- 12 支那事變患者ニ見ル「スプル」ニ就テ 三一四號

軍醫團雜誌以外ニ掲載ノモノ

- 1 一頭部戦傷患者ニ於ケル視床性症候
- 2 廣東地方ニ於ケル比較精神醫學一資料
- 3 思考言語過程ノ障礙トシテノ失語症狀
- 4 災害時ニ於ケル精神異常者ニ就テ
- 5 雜誌ニ掲載セザルモノ又ハ研究中ノモノ
- 6 頭部戦傷ニ關スル臨床的研究
- 7 精神分裂病ノ電氣療法ニ關スル研究
- 8 器械ノ構造ハ圖誌、特ニ試作衛生材料トシテ掲載セラレアリ、藥物ノ節用、治療成績ノ向上ニ資スルコト大ナリ
- 9 教育能率ノ向上並ニ犯罪防止ニ關スル研究
- 10 本研究ノ結果ハ陸亞密第四六一九號(昭和十九年五月)トシテ陸軍一般ニ達セララル
- 11 精神機能検査ニ關スル研究
- 12 精神機能検査法(昭和十九年七月醫誌九一號)トシテ陸軍省ヨリ印刷配布
- 13 精神神経系疾患處理ニ關スル研究
- 14 精神神経系戰傷病除役恩給業務等ノ參考(昭和十九年六月)トシテ陸軍省ヨリ印刷配布
- 15 集團智能検査ニ關スル研究
- 16 研究セル智能検査法ノ一部ハ前記精神機能検査法ニ採用、他ノ一部ハ昭和十九年度徴兵検査ニ於テ壯丁約十二万ニ實施セラレ近ク其結果ヲ整理研究ノ豫定
- 17 處罰者ノ精神醫學的研究(軍醫團雜誌掲載豫定)
- 18 教化兵ノ精神醫學的研究(軍醫團雜誌掲載豫定)
- 19 非行犯罪ト精神障礙ニ關スル研究(軍醫團雜誌掲載豫定)
- 20 防空部隊ニ於ケル精神醫學的研究(軍醫團雜誌掲載豫定)
- 21 大東亞戰爭ニ於ケル精神分裂病ノ研究(研究中)
- 22 大東亞戰爭ニ於ケル進行癡痺ノ研究(研究中)
- 23 大東亞戰爭間經驗セル各種疾患
- 24 腦脊液所見ニ關スル研究(研究中)
- 25 軍隊ニ於ケル精神薄弱並ニ精神病質ニ關スル研究(研究中)
- 26 空中勤務者事故者ニ關スル研究(研究中)

精神神経學雜誌四卷一號

精神神経學雜誌四卷四號

精神神経學雜誌四卷七號

〇號

日本醫學新報一三三七號

第十一回日本醫學會ニ於ケル宿題報告

資料集成

戦争と障害者

【第1期】全7冊●概要

●編 清水寛(埼玉大学名誉教授)

●体裁 A4判・上製・総約二、五〇〇ページ「編集復刻版」

●揃定価 本体一四〇、〇〇〇円＋税

●配本 第1冊『病床日誌』知的障害編Ⅰ

二〇〇七年二月刊行 ●定価Ⅱ本体一〇、〇〇〇円＋税 ISBN978-4-8350-5759-0

第2冊『病床日誌』知的障害編Ⅱ

二〇〇七年四月刊行 ●定価Ⅱ本体一〇、〇〇〇円＋税 ISBN978-4-8350-5760-6

第3冊一八八一年～一九三三年の諸資料

二〇〇七年六月刊行 ●定価Ⅱ本体一〇、〇〇〇円＋税 ISBN978-4-8350-5761-3

第4冊一九三四年～一九五九年の諸資料

二〇〇七年八月刊行 ●定価Ⅱ本体一〇、〇〇〇円＋税 ISBN978-4-8350-5762-0

第5冊『病床日誌』戦争神経症編Ⅰ

二〇〇七年一〇月刊行 ●定価Ⅱ本体一〇、〇〇〇円＋税 ISBN978-4-8350-5763-7

第6冊『病床日誌』戦争神経症編Ⅱ

二〇〇七年十一月刊行 ●定価Ⅱ本体一〇、〇〇〇円＋税 ISBN978-4-8350-5764-4

第7冊『病床日誌』戦争神経症編Ⅲ

二〇〇八年二月刊行 ●定価Ⅱ本体一〇、〇〇〇円＋税 ISBN978-4-8350-5765-1

●推薦 野田正彰(関西学院大学教授)

吉田 裕(二橋大学大学院教授)

関連図書のご案内

●編集復刻版
**知的・身体障害者問題資料集成
戦前編 全16巻**

●解説 高橋淳子・平田勝政

●A4判／上製／総約六、〇〇〇ページ

●揃定価Ⅱ本体四〇〇、〇〇〇円＋税

●推薦 清水寛／一番ヶ瀬康子／大見川正治／中村満紀男

戦前期、「障害者」は国家・宗教・共同体・家族の中でどのように認識され、振り分けられ、保護され、疎外され、放置され、そして生き抜いたか。

学習障害児・知的発達障害児・肢体不自由児から傷痍軍人まで——知的・身体レベルの障害に関する調査報告書・リーフレット・教育啓発文書・施設案内・公文書等、資料群三〇〇余点を復刻！

●清水寛 編著

日本帝国陸軍と精神障害兵士

●A5判／上製／約三五〇ページ

●定価Ⅱ本体五、八〇〇円＋税

ISBN4-8350-5754-6

大日本帝国は、侵略戦争遂行にあたって、障害者者どどのように遇し、またその人権を無視して翻弄したか。また不条理な軍隊生活と非日常の極限的状况である戦場において、精神障害を発生した人々は、どのように生き抜き、あるいは斃れたのか。日露戦争以降の「不良」兵士・知的障害兵士だけを集めた陸軍懲治隊・陸軍教化隊から、「未復員兵」と呼ばれ、精神病棟に置き去りにされた元兵士の現在まで、帝国の精神障害兵士たちを綿密な資料と調査で追跡した、終わらない戦争の本質を見つめる初の研究書。

●表示価格はすべて税別。

不二出版

T1113・0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03・3812・4433
ファクシミリ03・3812・4464
振替00160・294084